

特集

世界へ挑む、神栖のアスリート

トライアスロン日本代表 安松青葉選手

スポーツの秋。今回は神栖市出身のトライアスロン選手で、9月に開催されるアジア競技大会に日本代表として選出された安松青葉さんに迫ります。神栖の思い出から競技の魅力、世界を舞台に戦うトップアスリートとしての思いまで、たっぷり語ってもらいました。



bike
自転車



run
長距離走



安松選手

神栖と縁の深いスポーツ

皆さんはトライアスロンにどんなイメージを持っていますか？ 実は神栖市は絶好の練習環境がそろい、合宿がおこなわれたり、日本のトップ選手を輩出したりするなど、意外と縁の深いスポーツです。スイム（水泳）・バイク（自転車）・ラン（長距離走）の3種目を連続しておこなうのでもハードな競技ですが、初心者でもチャレンジしやすいスプリント（計25・75キロ）から、シヨート（オリンピック、計51・5キロ）、ミドル（計102キロ）、ロング（計225・8キロ）までさまざまな距離のレースがあります。

今回は、日本選手権で優勝し、オリンピック代表の有力候補として注目される安松青葉選手が、合宿地のフランスからリモートで、いろいろな質問に答えてくれました。

※距離は大会によって異なります

練習環境に恵まれて

小学生時代から全国優勝

Q 小学1年生の時にトライアスロンを始めたきっかけと、競技に夢中になった理由は？

小学校に入学する前から、父親と家の周りを走ったり、サイクリングをしたりしていました。その流れで、小学1年生の時に千葉県で開催されたキッズ大会に出場したら、いきなり優勝することができたんです。自分よりも父親の方が乗り気で、二人三脚でトライアスロンに取り組んできました。正直なところ、小・中学生の競技人口は少なく、練習をちょっと頑張れば全国大会で表彰台に上がる状況でした。全国優勝すると、学校の全校集会で表彰されたり、周囲からちやほやされたりして（笑）、それがうれしくて続けていた感じです。

Q 神栖市はトライアスロンのトレーニングがしやすい環境ですか？

大会ではプールではなく海、川、湖などで泳ぐので、海が近くにあることは非常に大きな要素です。また、自転車のトレーニングは信号が多いと乗りづらいのですが、神栖市にはリバーサイドサイクリングロードがあり、鹿島臨海工業地帯の辺りでも周回コースを設定できます。ランについても、神之池緑地公園や神栖総合公園など走りやすい公園がたくさんあります。3種目とも練習のしやすい環境がそろっているので、大学

生の時には、私がみんなに声をかけて神栖市で合宿をしました。

Q トライアスロンの魅力とは？

自分と向き合うスポーツであり、弱い自分に打ち勝った時の「達成感」が最大の魅力です。だから挑戦したくなるのだと思います。

トップアスリートの日常

Q 一年間の主なスケジュールを教えてください

年間15〜18レースに出場し、3〜11月のシーズン中に、多い時は3週連続とか4週連続で大会があります。合宿は2月、7月、12月の年3回、それぞれ1カ月ずつおこないます。夏場

アジア大会金メダルとオリンピック出場を目指す

Q 2025年の日本トライアスロン選手権で初優勝した時の気持ちと、勝因を教えてください

競技について、世の中では、まだあまり知られていません。そこで、コロナ禍で大会が少ない時期にYouTubeを始めました。日本代表や強化指定選手が自ら発信することとは少ないので、競技のことに加え、遠征の様子や海外事情なども交え、少しでも興味を持ってもらえるよう工夫しています。



①

②

安松兄妹そろって優勝
世界キッズトライアスロン大会

①毎年開催されていた「波崎トライアスロン大会」の様子（広報かみす2007年10月1日号） ②2006年「オールキッズ・トライアスロン大会」小学3年男子の部で優勝した安松さん ③子どもの頃の安松さんの活躍を紹介した「広報かみす」（2009年10月1日号）



③